

第2回（仮称）平和資料館開設準備懇話会について

1 概要

（仮称）平和資料館については、昨年度から、建設地の造成や樹木整備等を行い、今年度は建築工事に着手する予定である。

施設整備を着実に進める一方で、開館に向けて、自主事業や運営体制等の検討を進めるため、学識経験者や他の公立の資料館の関係者等の専門的な見地から意見を聴取する「（仮称）平和資料館開設準備懇話会」を設置している。

本年1月に第2回の会議を開催しており、内容は次のとおりである。

第2回の懇話会（1月30日）では、

- ・コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・（仮称）平和資料館の管理・運営（ボランティアの活用）
- について、事務局からの説明を行い、委員からの意見を聴取した。

2 開催期間 令和元年8月～令和3年3月（4回予定）

3 委員名簿

| 氏名 | 所属等 |
|----------|-----------------------|
| 大久保 一哉 | 長崎原爆資料館館長 |
| 後藤 みな子 | 一般社団法人 北九州文学協会理事長 |
| ◎ 近藤 倫明 | 北九州市立大学名誉教授 |
| 佐方 はるみ | 九州女子大学人間科学部特任教授 |
| 戸高 一成 | 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長 |
| 凧 恵美 | 松永文庫 室長代理 |
| ○ 羽田野 隆士 | 北九州商工会議所 専務理事 |
| 吉水 請子 | 極東ファディ株式会社 取締役 |

◎座長 ○副座長

（敬称略・50音順）

4 今後の取り組み

議会からのご提案等を踏まえつつ、懇話会での議論を深め、運営計画をまとめる。

《資料》

- ・懇話会の進め方（意見聴取事項）について 別紙1のとおり
- ・議題1：コンセプト等に基づく展示内容の整理について 別紙2のとおり
- ・委員の主な意見について（議題1） 別紙3のとおり
- ・議題2：（仮称）平和資料館の管理・運営（ボランティアの活用） 別紙4のとおり
- ・委員の主な意見について（議題2） 別紙5のとおり

(仮称)平和資料館開設準備懇話会の進め方

8月 27日
(火)

第1回 懇話会

(議題)

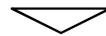
- (仮称) 平和資料館基本計画・実施設計
- コンセプトに基づく展示内容
 - ・ プロローグ (導入展示)
- 館の自主事業 (展示以外)

1月 30日
(木)

第2回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容
 - ・ 戦前の北九州
 - ・ 戦争と市民の暮らし
- 館の管理・運営
についての意見聴取

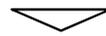


未定

第3回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・ 空襲の記憶
 - ・ 運命の昭和20年8月8日・9日
 - ・ 戦後の復興
 - ・ エピローグ展示
- 館の管理・運営
についての意見聴取



未定

第4回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・ 企画展示
- 館の管理・運営
についての意見聴取

議題 1 : コンセプトに基づく展示内容の整理について

- ・ (仮称) 平和資料館実施設計「展示室ゾーニング」
- ・ (仮称) 平和資料館実施設計「戦前の北九州」(一部「プロローグ」を含む)
- ・ (仮称) 平和資料館実施設計「戦争と市民の暮らし」

第2回「(仮称)平和資料館開設準備懇話会」での委員の主な意見

(概要)

■議題1：コンセプト等に基づく展示内容の整理について

○「戦前の北九州」・「戦争と市民の暮らし」

- 実物資料の中には、見てわかるものと分からないものとが混在している。日用品を単に置くのではなく、それがどのようなものであるかを想像させるような工夫が必要。
- 若い人にどう訴えるか。被爆体験を被爆者が話してもなかなか伝わりにくい。気持ちは伝わっても、戦時中の食事の状況などが理解できないため、時代背景を持った漫画などを使って訴えていけばいいと思う。
- 小倉陸軍造兵廠というものを、子どもたちに教える時に、当時、全国に造兵廠はどのぐらいの数があったのか、そのうちのひとつが小倉陸軍造兵廠ということも参考に紹介してはどうか。
- プロジェクションマッピング等とは別に、唯一現物の本物を見せるというのはこの「戦争と市民の暮らし」のゾーンであり、静かにそれを見て考えてもらうようなスペース。資料館の中にもメリハリのつくゾーンというのがあってもいい。

○その他

(展示全般について)

- 長崎原爆資料館には、特にアジア系の方が多く来るが、長崎は壊滅的な被害を受けたのに、どうやってこれほど復興したのかと聞かれる。北九州も空襲で被害に遭った。大変な努力をされて復興されたと思うので、紹介できればと思う。
- 北九州は空襲に遭い、戦後は4大工業地帯と言われるほど復興したというところにも脚光を当て、若者たちに希望を与えることも必要である。

(北九州市非核平和都市宣言の展示について)

- 資料館での平和学習は、戦時下の暮らしなど幅広いテーマにした展示を通して、来館者が当時の人々の苦労などを学び、戦争を繰り返さないように考えることが大事である。宣言は大事だと思うが、大きく取り扱えば展示テーマが狭くなる。
- 資料館は宣言のための施設ではないので、展示場所などは慎重に検討すべき。
- 展示の議論の途中であり、委員がひと通り展示内容を把握した上でどのように展示するかを検討した方がよいのではないかと。

議題2：(仮称) 平和資料館の管理・運営 (ボランティアの活用について)

1 ボランティア導入のメリット（一般的な）

地域住民の視点が、施設や展示における住民のニーズの反映、資料収集における情報提供等に有用であるため、全国的にボランティアを活用している博物館等が多い。

2 他都市のボランティア導入状況と課題

他都市の戦争・平和に関する施設では、展示解説や絵本の読み聞かせ等を行うボランティアが活動しているところもある。

しかし、展示解説ボランティアについては、自分の歴史認識等を基に、展示内容とは異なる解説を行い、来館者とトラブルになる等のケースもある。

一方、中・高校生を対象に、博物館のイベントの受付や講座補助等を行うボランティアを導入し、地域を担う人材の育成を図っている博物館もある。

3 ボランティアの類型

(1) 常時

| 区分 | 具体的な内容（主なもの） |
|--------|------------------------|
| 施設管理業務 | 館内の環境整備、観覧マナーの指導、障害者介助 |
| 資料収集業務 | 資料に関する情報提供、収集・整理の補助 |
| 調査研究業務 | 資料等に関する情報収集、文献の整理 |
| 教育普及業務 | 展示解説、資料解説 |
| 広報業務 | 広報紙の作成補助・印刷・配布 |

(2) 臨時

| 区分 | 具体的な内容（主なもの） |
|--------|-------------------|
| 教育普及業務 | イベント補助、団体観覧時の展示解説 |
| | 戦争体験の講話 |

4 資料館でのボランティア活動や人材のあり方の視点

(1) ボランティア活動を通して、北九州の歴史を語ることができる若い世代の育成

(2) 資料館のコンセプトを十分に理解した人材の確保

第2回「(仮称)平和資料館開設準備懇話会」での委員の主な意見 (概要)

■議題2：(仮称)平和資料館の管理・運営について

○ボランティアの活用

- 展示解説ボランティアの導入は望ましいが、運用は難しい面もある。研修を行っても、どうしても、その人の主観が入る。慎重に検討すべき。
- ボランティアには、いろんな思いで集まっているので、管理する側が、できること、できないことをきちんと分けて、影響のない形でというのを整えてからお手伝いいただくのがいい。
- 小学校などの平和学習で子どもたちに事実を伝えることが必要なので、教育的立場での説明は、専門性のある学芸員や職員が行うべき。
- 長崎市でも大人とか被爆者のボランティアの場合は、研修しても、案内している時に自分の考えを言われることでトラブルが起きることがある。
- ボランティアの活用は若い人の育成ということなら、子どもたちに影響がない程度の範囲であればいいのでは。
- ボランティアの運用規定というのがどこでもある。施設の長の管理・考え方も違うので、どう活用するかというのは、運用規定をしっかりと示さないとやっぱりいけない。